

1 大阪・関西万博のインドネシアパビリオンでイベントを開催しました！

2025年9月19日、大阪・関西万博テーマウィーク「地球の未来と生物多様性」に合わせ、「木を植える人を育てる：インドネシア×日本 環境インターンシップの挑戦」というセミナーイベントをインドネシアパビリオンで開催しました。本イベントは、インドネシアで実施している「NGO Learning Internship Program」の取組みがインドネシア政府から高い評価を受け、インドネシアパビリオンでの開催が実現したものです。

当日は、企業関係者、CSOラーニング制度関係者を中心に約50名が参加しました。冒頭、経団連自然保護協議会酒向事務局長が、「環境人材育成への期待」というテーマで日本経済界の生物多様性・環境保全の最新動向について講演しました。同協議会は30年以上経済界の自然保全を牽引し、基金により国内外1,800件超のプロジェクトを助成しており、インドネシアではオランウータン保護やマングローブ再生などの活動をしています。生物多様性枠組やネイチャーポジティブ移行戦略が進む中、企業は「企画し、実行し、伝え、現場で行動する人」の育成が要となり、CSOラーニング制度修了生がインドネシア環境省で活躍する姿は、人材育成の確かな成果を示すもので、本イベントが、日本とインドネシアの連携を深め、環境人材育成の輪を広げる一助となることへの期待を語りました。



酒向事務局長

続いて、SOMPO環境財団の中村茂樹専務理事から、CSOラーニング制度の概要、日本やインドネシアでの取り組み状況を紹介しました。具体的には、日本では2000年から、インドネシアでは2019年から事業を開始し、それぞれ約1,400名、約130名の修了生を輩出しており、環境人材の広がりを紹介するとともに、今後の制度運営について説明をしました。



中村専務理事

その後、株式会社バイオームの藤木代表から、「インドネシアから世界へ生物多様性の保全をビジネスにする挑戦」というタイトルでご講演いただきました。研究者としてインドネシア熱帯林で過ごした原体験から、「木を切らずに生計を立てられる社会」を目指して起業し事業を黒字化したことや、同社が生物多様性保全をビジネス機会と捉え、TNFD（自然関連財務情報開示タスクフォース）など開示ルールの進展を背景に、企業が地域性を踏まえた保全活動に取り組むことが新たなチャンスを生むこと、そして同社が開発したスマートフォンアプリ「Biome」で1000万件超の生物出現データを蓄積・可視化し、このデータと衛星画像を組み合わせることで、企業や自治体の保全活動の効率的な支援につながることや、インドネシア政府機関と連携し評価ツール開発を進めていることなどを説明しました。



藤木代表

生物多様性保全を「ボランティア」ではなく「経済合理性のある事業」として確立し、企業が事業戦略に組み込むことの重要性を強調し、日本とアジアが世界をリードするチャンスであり、SOMPOグループなどとのパートナーシップと共に未来を切り拓くことの期待を述べ、参加者からも多くの共感を得ていました。



後半ではパネルディスカッションを行い、ファシリテーターにCSOラーニング制度2011年度修了生で、日本環境教育フォーラム事務局長の加藤超大さんを迎え、パ

ネリストにはインドネシア1期生で林業省に勤めるAulia Rahmanさん、5期生でISO取得コンサルに勤務後、現在はインドネシア大学の大学院に通うAlfitra Firizkiaさん、日本の2017年度生で名古屋市勤務、藤前干潟を守る会の理事も務める岸晃大さん、2020年度生でPOWジャパンのアドバイザーや気候ネットワークの理事を務める武井七海さんに登壇いただきました。それぞれの国が抱える環境課題として、若者世代の意識格差や環境を仕事にする選択肢の少なさ、また企業が環境人材育成に取り組む意義などのテーマについて語り、登壇者それぞれから、「想いを伝える、広げる、信じる」をキーワードに、環境への想いを伝えたいうえで、持続可能な未来や人づくりなど次の一步に向けたメッセージを発信しました。



最後に、インドネシアでの制度立上げ当初から支援してくださっている、インドネシア環境省環境世代開発センター長のJoさんから、今回のイベントが日本とインドネシアの環境保全の取組みに関する理解を深め、より強固な協力関係を築く貴重な機会となること、また、環境分野で活躍する若い世代が、国際的な視野を持ち、持続可能な未来に向けて、リーダーシップを発揮できるようにすることを心から願っていますとの力強いメッセージを頂きました。



Joセンター長

参加者からは、「日本とインドネシアの関係性について理解を深める良い機会だった。これからも環境分野での相乗効果が生まれ続けることを期待する」「このような素晴らしい事業をSOMPOグループが行っていることに感銘を受けた」「SOMPO環境財団がこのように世界の環境に貢献する取組みをしていることが、社員として大変誇らしい」といった感想をいただきました。

日本での制度開始から25年経過したタイミングで、SDGsを大きなテーマの柱とする大阪・関西万博でイベントを実施できたことは、財団として事業を振り返り、今後を展望するうえで貴重な機会となりました。初めてインドネシアの修了生と日本の修了生が肩を並べてイベントに参加してくれたことも印象深く、今回のイベントをきっかけに、より連携を強め同じ制度に参加した仲間としてのネットワークの構築を期待するとともに、インドネシア政府、日本環境教育フォーラムと連携を深め、インドネシアでの制度運営を通じて、今後も両国での環境人材育成に取り組んでいきます。

2 CSOラーニング制度夏期合宿を開催しました！

8月4日（月）から6日（水）の3日間、損保ジャパンの守谷総合研修センターにて、CSOラーニング制度夏期合宿を開催しました。昨年度は台風のため急遽オンライン開催に変更となってしまうしましたが、今年度は台風を避けて実施時期を前倒しし、無事に対面で開催することができました。合宿プログラムの一部をご紹介します。

・西澤理事長講演

合宿の冒頭では、財団の西澤理事長が「地球環境の現状と国際社会における環境政策の最新動向」というテーマで講演しました。会長を務める経団連自然保護協議会での海外視察などのエピソードを交え、ビジネス界から見た国際的な環境政策の現状を伝えました。ラーニング生の皆さんから多くの質問が集まり、国際社会での日本の役割や、日本が抱える環境課題について活発な意見交換が行われました。



こともあるバランスの難しさに終始悩んでいる様子が印象的でした。振り返りの中では、連携して課題に取り組む必要性を感じた、という声が多く聞かれ、それぞれがゲームを通じて貴重な学びを得たことがわかりました。

・修了生交流会

今回の合宿には比較的年次の近い4名の修了生に参加いただき、現役生との交流会を行いました。異なるフィールドで活躍する修了生から、進路選びや現在の仕事、ラーニング生時代のエピソードなどを語っていただき、現役生は真剣に耳を傾けていました。夕食後には修了生を交えた懇親会も行われ、和やかな雰囲気の中で交流を深めました。



そのほか、合宿ではチューター企画によるマシュマロチャレンジやミニプロジェクトのキックオフなどが行われ、3日間のプログラムの中でラーニング生同士の絆が深まっていく様子が伺われました。例年とは異なり、インターン活動開始直後のタイミングで合宿を行えたことで、今後の活動期間中の連携も深まるものと思います。最後の「行動宣言」では、ラーニング生それぞれがインターン活動の目標を力強く宣言してくれました。今後のラーニング生の活躍に、どうぞご期待ください！



・インドネシアラーニング生との交流会

インドネシアで同じくインターンシップに参加している同期の仲間たちと、オンラインでの交流会を実施しました。初めに2月に活動をスタートしているインドネシアのラーニング生から活動紹介をしてもらい、その後は自由に意見交換しました。お互いの国の環境問題に関する質問が多く交わされ、日本のラーニング生は自分の国の現状について説明する難しさを感じたようでした。

・「The Action! -SDGsカードゲーム-」



2日目は、SOMPOグループが開発した「SDGsカードゲーム」を実施しました。SDGsについて学びながら、様々なステークホルダーの行動が地域をどのように変えていくかを体験できるゲームです。行政や企業など様々な立場で目標達成を目指すことが、地域の状況を悪化させてしまう

3 【連載】CSOラーニング制度派遣先インタビュー

Question

- ① ラーニング生はどのような業務をしていますか？または、どのような業務をする予定ですか？
- ② ラーニング生にはどのような期待をしていますか？
- ③ CSOラーニング制度について、お考えをお聞かせください。

01 公益社団法人日本環境教育フォーラム 垂水 恵美子 様



- A①** 環境教育や自然体験活動、ワークショップの運営をサポート。会議や資料作成、レポート作成を通じて環境問題への理解を深め、企画力やファシリテーション力など、現場で生かせる実践的なスキルを幅広く磨きます。
- A②** 特別な知識やスキルは必要ありません。活動を通して環境問題に関する理解を深め、企画立案やファシリテーションといった力を自然に身につけられるようサポートします。7ヶ月のインターン期間は思った以上に早く過ぎていきます。だからこそ、受け身ではなく自ら学び取り、挑戦しようとする積極的な姿勢を大切にしてほしいと考えています。環境や人とのつながりを通じて成長したいという思いを持った方と出会えることを楽しみにしています。
- A③** 私自身もこの制度の修了生の一人です。活動を通して試行錯誤を重ねる中で、自分の進む道としてJEEFで働くことを選びました。活動期間中は挑戦の機会を惜しみなく与えてくれた周囲の大人の存在が大きな支えとなり、今も感謝の気持ちでいっぱいです。だからこそ、今の学生の皆さんにも、与えられた時間を受け身ではなく積極的に活かし、自分の成長につながる挑戦を重ねてほしいと思います。この制度が、そのきっかけとなることを願っています。

02 NPO法人グリーンシティ福岡 伊東 しおり 様



- A①** 主に公園や緑地、森林、河川など様々なフィールドでの自然観察会や保全体験等のイベントスタッフをお願いしています。参加者の安全への目配りや撮影をベースに、クラフトでの参加者の補助や時には進行役も経験してもらっています。
- A②** 少人数の団体ですので、イベントスタッフとして活躍してくれることを期待しています。現場で進行のノウハウや安全管理のポイントなどを学び、インターン期間中に自分でイベントを企画、運営、実施まで一通り経験してみたいですね。また、社会に出た後も自然とふれあっている時の参加者の表情や様子、出てきた言葉などをずっと覚えていて欲しいと思います。
- A③** 小規模団体にとって、とてもありがたい制度です。普段なかなか関わる機会が少ない若年層の意見を聞かせてもらったり、SNSの使い方を教わったり(笑)、社会を覗く手掛かりになってくれています。双方のやりたいこと、やってもらいたいことのバランスを上手にとりながら、実りの多い期間にしていきたいと考えています。